

2012年度・平成24年度 事業報告書

2012年・平成24年 4 月 1 日 ～ 2013年・平成25年 3 月31日

2 0 1 3 年 4 月 1 日

学校法人山口学園

くずは青葉幼稚園

目 次 2012年度・平成24年度 くずは青葉幼稚園 事業報告		本書は 19ページを以て成す
第1節 法人・幼稚園概要	3	page
第2節 2012年度・平成24年度 幼稚園運営指針	3	page
① 経営理念	4	page
② 本学園の使命	4	page
③ 教育理念	4	page
2012年度・平成24年度 教育指針・保育指針	4	page
2012年度・平成24年度 異年齢児による教育活動の報告	5	page
第3節 自己評価の取り組み	5	page
第4節 子育て支援事業	5	page
① 預かり保育	5	page
② 園庭開放（未就園児子育て支援）	6	page
③ 課外教室	6	page
第5節 教育環境設備の充実	6	page
第6節 納付金の減免	7	page
第7節 経営改善計画の策定 平成20年度策定?経営改善計画の取組み実績と今後の課題のまとめ	7	page
第8節 大阪府私立幼稚園経常費補助金	8	page
第9節 枚方市／平成24年度幼稚園幼児教育充実事業	8	page
第10節 保護者交付各補助金	8	Page
第11節 組織運営体制	9	page
① 理事長・理事会の役割と責任	9	page
② 幼稚園運営体制	9	page
第12節 教員の資質向上	9	page
① 園内においての保育研究	9	page
② 園外においての研修 ③ その他の園内外においての研修等	9	page
第13節 園児健康管理	9	page
第14節 職員健康管理	10	page
第15節 幼稚園行事（事業）の概要実施報告	10	page
第16節 学事報告	10	page
平成24年度 学籍詳細	10	page
平成25年度 就学小学校一覧	10	page
第17節 財務報告	11	page
第18節 その他の報告	11	page
① 未就園児教室の開講	11	page
② 未就園児（在園児）園庭開放の実施	11	page
③ 小学校との連携・交流	11	page
④ ホームページの更新（情報公開）	11	page
⑤ 高齢者との交流会	12	page
⑥ 通園バス運行	12	page
⑦ 銀行借入金に関して	12	page
⑧ 園則変更について	12	page
⑨ 給食実施状況・食育の取り組み状況	13	page
⑩ 度事業計画策定に際しての特記事項	14	page
⑪ 落雷被害について	14	page
⑫ AEDの設置	14	page
⑬ チューリップの会の参画 [地域子育てサロンの支援]	14	page
⑭ 施設設備等、教育環境の改修工事・新設・購入に関する特記事項	15	page
⑮ 学費管理システムの新規導入	15	page
⑯ 不用教材、粗大塵等の処分	15	page
⑰ 文部科学省「子どもの学習費調査」	15	page
⑱ 中学生の「職場体験学習」受け入れ	15	page
第19節 沿革	16	page
学籍の推移 [資料]	18	page

学校法人山口学園 くずは青葉幼稚園

2012年度／平成24年度 事業報告書

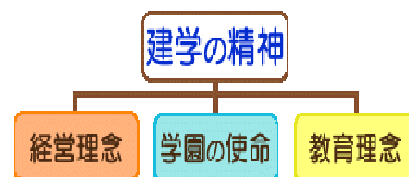
第1節. 法人・幼稚園概要

設 置 者	学校法人山口学園
学 校 名	くずは青葉幼稚園
所 在 地	枚方市北楠葉町38番1号
学 校 長 氏 名	園長 山口尚志
法 人 代 表 者	理事長 山口亨 副理事長 山口尚志（法人の代表権を有する副理事長）
理 事 会	理事7名、評議員14名（年度途中欠員1名）、監事2名 定例理事会 2回開催（決算5月・予算3月、承認）
定員・実員学籍	定員400名 実員180名（平成24年5月1日時点） [3歳児46名、4歳児68名、5歳児66名]
職 員 構 成	平成24年度 園長1名、主任教諭1名、教諭11名、園務員1名、嘱託/バス運転手2名。以上正職員 [体育講師1名] 合計16名（平成24年度新規教員採用2名。前年度末退職教員3名）合計16名
建 学 の 精 神	「たくましく人間性豊かな子どもをめざす」
そ の 他 I	以下の項目は、ホームページ [http://www.k-aoba.ed.jp/] にて詳細公開 (本事業報告書にての記載を略) 建学の精神・教育方針／指導方針・学園環境・保育概要・沿革（本書第19節・P16に掲載） 2011年度教育指針（本書第2節③・P3～5に掲載）学費納付金・預かり保育・情報公開〔幼稚園概要（事業報告・財務状況等）・課外教室・食育取組及び給食内容・感動の声（保護者意見集）・推薦の言葉・保護者交付各補助金（2012年度交付実績は、本書・第10節・P8に掲載）〕
そ の 他 II	法人及び幼稚園連絡先 電話 072-857-8221 FAX 072-856-5944 メールアドレス info@k-aoba.ed.jp 園章 

第2節. 2012年度・平成24年度 幼稚園運営指針

開園35年の実績を基盤に本園幼児教育の推進と充実を図るため、併せて「建学の精神」をより太くするため、年度初め（2012年度）に「経営理念」「学園の使命」「教育理念」の三つの柱を再認識の上、運営指針を定めた。これは、継続してその指針の目標達成に努力すべき事項であり、不変の指針とも言うべき事項である。従って、2012年度・平成24年度においてもこの指針に基づき幼稚園運営を行なった。また、本園全体で実践している「異年齢児による教育活動」の充実を図るため、年度指針を設定した。

更に学年ごとに詳細の教育目標を設定、これを全教員共通理解を図り、幼稚園全体の教育内容の充実のため意志統一を行った。〔2012年度・本園の教育指針並びに学年の教育目標、異年齢児による教育活動の指針については「学校評価」（2013年4月公開）の前段に掲載〕



① 経営理念

多様化、複雑化する社会構造と教育構造の真意を捉え、次代を担う子どもの生育を真摯に考え変化を先取りする。また保護者ニーズの真意を捉え保護者との連携を構築し幼稚園教育の満足度を高めることをねらいとした。教職員は、業務並びに事業全てに対して「一生懸命な姿勢」を貫き、結果のみを重視することなく過程をも重視した教育を実践することを理念とし設定した。

教育水準の向上を図り、園の目的を実現するため教育活動及び学校運営の状況について自ら点検及び評価（学期毎）を行い、その結果を年度末（または年度初）に公表した。（2009年～2012年それぞれ4月公開、2013年4月公開予定）

また、園の教育活動その他の学校運営の状況について保護者等に対して積極的に情報を提供。さらに危機管理体制を構築し、安全な幼児教育環境を設定した。

公開する内容

- (1) くずは青葉幼稚園・学校評価
- (2) 財務状況（消費収支計算書・資金収支計算書・貸借対照表・財産目録）
- (3) 本園の教育活動について出来るだけ公開し、幼児教育機関としての役割を果たす。（HP等の活用）

② 本学園の使命

保護者に文書並びにホームページを活用し、子育て情報、教育情報等を積極的に発信し、家庭・保護者教育力を高めることが成されるよう努力した。（上記、①-③重複項目）

また、年間を通じて「園庭開放」を実施し、未就園児保護者も含め家庭との連携を深め子育て支援を充実させた。更に大阪府が推進する「スマイルチャイルド事業」として、幼稚園開園11時間（預かり保育の19時終了）を実践した。

③ 教育理念

2012年度教育指針・保育指針を全教員で年度初めに確認し共通理解のもと実践に取りくんだ。概要は下記の通り。従来の「幼児体育・健康領域」の重点指導はもとより、領域「人間関係」の重点的指導並びに環境構成に留意し「異年齢児」による教育活動を昨年度以上に推進した。その活動日・教育日数を年間において増加しこれに充てた。

※ 2012年度・本園の教育指針並びに学年の教育目標、異年齢児による教育活動の指針については、2014年4月公開の「自己評価・学校評価」の前段に掲載。

2012年度・平成24年度 教育指針・保育指針

本園は、幼児の「心身の成長」を促し、子ども達相互の「ふれあい」を大切にした教育環境を整えることが何よりも大切と考えている。そして、幼児がいろいろな生活体験を積み重ねることができるよう指導と援助を行い、「明るく伸び伸びした幼児の育成」を目指すことが教育目標である。幼稚園集団生活の中で、幼児期の「躰」を充分に行い、情緒の安定を図り、そして将来の社会の担い手となるよう、自主性と協調性をもった豊かな「個性の創造」を育むことに努力研鑽に努めている。「幼児の心身の成長発達を助長し明るく伸び伸びとした集団生活を行う」「幼児期の幅広い諸経験を通して自主性を培い、そして体得して表現し、さらに集中してやり遂げる」という幼児教育を目指している。それぞれの学年において2012年度に詳細の「教育目標」を設定し、保育に努めた。

※ 2012年度・本園の教育指針並びに学年の教育目標、異年齢児による教育活動の指針については、2013年4月公開の「自己評価・学校評価」の前段に掲載。

2012年度・平成24年度 異年齢児による教育活動の報告

各学年並びに園全体の教育目標

- ◎年長 自分で考えたり、友だちと協力しながら、見通しをもって生活や活動を展開し、意欲的に園生活を送る
- ◎年中 活動や遊びの中で友だちと意見を伝え合い、受け入れながら自分の力を発揮し、意欲的に取り組む。
- ◎年少 基本的な生活習慣を身につけ、安定して園生活を過ごすとともに、自分の思いを様々な方法で表現し、友だちと関わる楽しさを味わう。
- ◎全体 異年齢活動の教育目標
 1. 異年齢の友達に親しみをもち関わりを深め、友だちとの生活の中で自分らしさを発揮する。
 2. いろいろなクラス、学年の友達や保育者との関わりを楽しむ。
 3. すずんで関わりをもち、思いやりの気持ちを育む。

異年齢活動取り組みの報告

異年齢保育は、人と関わる力を育み、経験の中で人への優しさやいたわる心を育てるということを確認した。園児は、子ども同士の関わりとたくさんの経験の中で「やってあげたいと思う心」「やさしくされて嬉しいと思う心」は「人と関わる力」となった。そして新しい人間関係を築く第一歩となった。

年間を通し、「教育目標・ねらい」を設定し取り組んだ。これらの幼稚園における「異年齢活動」がきっかけとなり、日常のあそびや登・降園での子ども達同士の関わり、預かり保育の活動時における子ども達同士の関わり方が、さりげなく自然になった。異年齢児の交流は、決して一方通行ではなく「やってあげるだけ」「やってもらうだけ」では成り立たず、「やってもらったことへの感謝の気持ち」「やってあげたことが、伝わった喜び」等、お互いが感じあうことが重要であると教員一同再認識した。友だちの思いに気づく、友だちのことを思いやる、それが「かかわる力」であり、友だちやまわりの人に助けられながら、特に年少児達は、少しずつ身につけはじめた。この取り組み、教育活動により本園の「建学の精神」がより太いものとなり、園児に意義ある教育活動並びに幼児の発達の援助が成されたものと認識している

第3節. 自己評価・学校評価の取り組み (第2節-①関連)

継続して評価項目に沿って「自己点検・自己評価」を学期毎に行い、教員自らが主観的に指導や子どもとの関わりを省みた。そして、総合評価として園長・主任による評価を加え、それを客観的評価と位置付けた。また、学校関係者評価として本園父母会役員の方に意見を求めた。また、本法人理事会に報告の前に理事1名の方、また地域公人として枚方市議会議員の方1名にその内容を説明し、意見を求めた。これにより、学校評価委員は16名の構成とした。その結果、「特に指摘すべき事項・内容はない」旨の評価が成された。

これを2008年度以降同様に新年度・2013年4月に「2012年度 学校評価・自己評価」として、ホームページにて公開を行う予定。

第4節. 子育て支援事業

① 預かり保育

従来の17時30分まで園児を預かり、「預かり保育」を実施しているところであるが、新年度より19時迄、預かり時間を延長し子育て支援事業の充実を図った。また、7月及び8月夏期休業中（夏休み）に19日間の預かり保育実施。冬休みに2日間、春休みにおいては、進級児を対象に4日間の預かり保育を実施した。尚、子育て支援事業の趣旨のみに非ず、従来の教育活動同様に「異年齢児による教育活動」と位置付け、子ども同士の関わりを深めるための指導や援助を実践し、子ども自らが育つ「子育て」の環境を調えた。

通常時・預かり保育／日数／利用人数等実績

保育日数の年度別差異は、暦の関係による

通常預かり保育 4月～3月	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
預かり保育日数	年間168日	年間171日	年間165日	年間182日
預かり保育延べ利用園児数	3019名	2535名	2846名	2637名
一日平均園児数	17.9名	14.8名	17.2名	14.4名

長期休業中・預かり保育／日数／利用人数等実績

夏期 預かり保育 7～8月	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	春期 預かり保育 3月	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
預かり保育日数	14日	16日	19日	18日	預かり保育日数	実施せず			4日
預かり保育延べ利用園児数	650名	746名	848名	898名	預かり保育延べ利用園児数				85名
一日平均園児数	46.4名	46.6名	44.6名	49.8名	一日平均園児数				21.25名

冬期 預かり保育 12月	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
預かり保育日数	2日	2日	2日	2日
預かり保育延べ利用園児数	83名	98名	119名	57名
一日平均園児数	41.5名	49.0名	59.5名	28.5名

② 園庭開放（未就園児子育て支援）

園庭開放を年間を通じて実施した。（月１回～２回）未就園児並びに在園児も含め、保護者（家庭）との連携を深めた。

尚、参加者は一回のみの参加者、全回参加者も含め**164名**の参加、園庭開放日（10日間）に来園者総数は延べ**478名**となり昨年度の述べ参加数296名と対比すると**161.4%の対比**となった。各園庭開放日に**47.8名**平均の未就園児が来園となった。2010年度・2011年度は来園者が現象となったが、2012年度は、増加となった。

今後も継続して、園庭開放において 未就園児と保育者の関わりをより広く実践し、幼稚園に対する保護者意識を高めるよう環境を構成し、未就園児保護者の子育て支援事業としていきたい。併せて、就園前の保護者の幼稚園選択の一助となるよう努めたいものである。

	2006／H18 07/H19就園	2007／H19 08/H20就園	2008／H20 09/H21就園	2009／H21 10/H22就園	2010／H22 11/H23就園	2011／H23 12/H24就園	2012／H24 13/H25就園
園庭開放参加者	121名	97名	約80名	144名	138名	84名	164名
9月入園説明会参加者	70名	62名	56名	86名	96名	64名	77名

③ 課外教室

継続して、課外教室を展開し「子育て支援事業」として位置づけた。その教室内容は、以下の通り。

- I. アートクラブ〔絵画造形活動・教室名＝アートクラブ／月曜日開講〕
- II. スポーツクラブ〔体育活動クラブ・教室名＝スポーツクラブ／火曜日開講〕
- III. 英語教室〔英語指導教室・教室名＝ECC／水曜日開講〕
- IV. 幼児知育教室〔知育・教室名＝プレイルーム／木曜日開講〕
- V. 幼児知育教室〔文字、数の指導・教室名＝エンピツランド／金曜日開講〕

多くの在園児が課外教室を受講し、広く教育機関としての位置づけが成された。尚、スポーツクラブ及びプレイルームにおいては、卒園後（小学生）も課外教室を受講し、地域の教育センター的な要件を備えるに至った。

第5節. 教育環境・設備の充実

2011年度・平成23年度〔前年度の経緯〕

春期休業中（春休み／2011年3月20日～3月末）に園庭西の駐車場について第一次拡張工事を行ない、来園者駐車場の増設を行った。また、12月～1月において第二次駐車場拡張工事を実施。併せて、北園舎2階年長保育室壁面よりの雨漏りにより、壁面全面防水改修工事を行った。続いて、南園舎園門付近壁面のクラークにより壁面の崩壊が予測されたため緊急に塗装補強改修工事を行った。固定遊具について塗装の消耗により、全面的に塗装改修を行い、遊具の安全化を図った。保護者より洋式トイレの設置について要望があり、今後の保護者対応等を考慮し、南園舎1階の職員トイレに洋式トイレを設置した。2012年度より、預かり保育について午後7時を終業とするため、降園時の照明が必要とされる由を以て灯光機2機の設置を行った。この灯光機は、今後において「お泊り保育」「青葉まつり（夏まつり）」においても活用の趣旨を含めての設置とした。当該改修工事は、昨年度末に一部の工事の精算を含め、2011年度の決算において反映されることとなる。いずれも、教育環境設備の充実を図ることにより、より良い幼児教育を実践できるものとして有効と判断して改修工事を行った。

また、2011年度父母会運営により、幼稚園にテント1張の現物寄贈を受けた。さらに、図書の寄贈（15万円相当）の現物寄付を受けた。テントについては、行事等において広く活用し、図書については園児が常に読むことができるよう環境を調べ、教育環境の充実の一助となった。

2012年度・平成24年度

- ① **教育環境の整備事業**として夏期休業中の2012年8月24日に「砂場の殺菌」を行った。また、園児トイレの全部を殺菌並びに清掃工事を9月17日の祝日に実施した。これにより、長年にわたり清潔・殺菌清掃していたが、水垢並びに尿素等の除去により、清潔感が向上し快適なトイレ環境を整えた。
- ② **遊戯室屋根部分の防錆塗装**。屋根部分についての防錆については、過去に実施したが、その後の錆の広がりがあり、全体に錆色となり目視できる状況となった。このため、塗装業者に全部の「防錆並びに塗装」を依頼。11月にこれを完了した。

- ③ **年少保育室前のコンクリートフロアの安全対策。**年少保育室前のコンクリートフロア部分、園庭と廊下部分の建築上のコンクリートフロア部分に従来は、雨天時のみに滑り止めマットを敷設し安全対策を執っていた。建築構造上の課題があり、予め専門業者と安全対策について協議していたが「滑り止め塗装」等を実施してきた。長期間においてそのすべり止め効果も薄れるため、今般は「人工芝」の敷設とした。平米数の関係より、滑り止め塗装の費用と相対性があったが、園児転倒の際の安全対策を第一とし、敷設と判断した。
- ④ **保育室・父母会会議室・多目的室サロン室・園児休息室・職員更衣室・簡易倉庫・プレハブ倉庫・園長室の改修工事。並びに職員ミーティング室の新設工事。**保育室の改修工事については、平成25年度1クラス増となるため、本来保育室であったが、長年 父母会会議室としていた部屋を改修し新年度に備えた。また、従来のサロン室を多目的に活用できるよう（父母会役員会議室、保護者懇話室、小会議室等に活用）改修した。続いて、従来の職員更衣室は教材やコピー用紙の保管等に使用し、本来の更衣室の体を成さなかった。この際、南園舎の男子更衣室兼倉庫、並びに閉鎖中であったバスルームを改装改修し、更衣室と簡易倉庫とした。園児休息室は、発熱等により保育中に休息・安静を要する園児には従来、職員室において園児を視診しながらベッドにて安静に休養としていたが、職員室内の環境は相応しくなく、職員室北側の一面を拡張し「休息室」となるよう新設した。さらに、南園舎の従来の倉庫並びにフル南に位置するプレハブ倉庫内を整理整頓した。プレハブ倉庫については、雨漏り等のため防水塗装及び内装の改修を行った。尚、倉庫内の不用品〔過去の教材やおもちゃ、教務資料等〕一切を処分した。職員ミーティング室は、今後 きめ細やかな教務会議、ミーティングが必要と考え「教務体制の確立」と位置付け改修新設した。このミーティング室に簡易シャワールームを新設し、園児の排泄失敗時の対処等 また職員の「どろんこ遊び」の際の身体の洗浄等に活用する趣旨で設置した。
- ⑤ **電子ピアノ4台、大型絵本の購入、ままごとセット、図書一式の購入。**父母会事業活動として年度末に左記の現物寄付を受けた。父母会活動の趣旨に感謝し本園の教育活動に大きな効果が期待できるものと信じるところである。

第6節. 納付金の減免 （入園一時金施設協力金の兄弟姉妹関係児減免措置）

保護者の経済的負担を最小限に抑え、兄弟姉妹関係児の保育料減免措置、併せて空調費の減免措置も実施している。この趣旨に則り、さらに平成21年度入園者より入園一時金の内、施設協力費2万円を在園並びに卒園の兄弟姉妹関係の入園者〔納付義務者＝保護者〕に対して減免措置を執った。継続して平成25年度入園者について同様の減免措置を適用した。〔園則変更済〕

第7節. 経営改善計画の策定 [前年度までの経緯]

標題の「経営改善計画」を平成20年度において向こう5年間の計画を策定した。

- ① 従前より経費節減に努めた。その主な要件は、経費節減並びに減価償却額の減少となり、管理経費支出を抑制、さらに修繕費支出を抑えたが、平成20年度以降継続して、保育室改修工事を実施し、前ページ記載の通り、教育環境の整備を図る趣旨として、毎年度大幅に改修工事等の支出が拡大した。経営改善計画の根幹は上記の経費節減と学籍園児数の増大であり、今後の園児募集活動内容の充実を図る旨の計画を継続立案した
- ② 大阪府私学助成力カットが、平成20年度に打ち出され、経常費補助金の削減となったが、配分基準により精査すると、園児減少による園要素の単価減少（140名以下の配分単価／平成20年度本園実員は139名の構成要件）が大きく影響したものと判断でき、園児数拡大が課題と認識した。
- ③ 平成20年度策定の在籍園児数の拡大について、毎年5名の増加を設定した。在籍園児数においては、22年度内に向こう5年目（H25年度）の標値を達成した。これを受け、園児要素並びに教員要素において経常費補助金の増額が得られた。
- ④ 上記①、②を受け、2010年度・平成22年度において継続して「経営改善計画」の修正を行いこれを継続し、幼稚園運営・経営の安定化を目指した。2011年度・平成23年度は、この修正経営改善計画を基本に事業運営に取り組んでいるところである。但し、経常費補助金内の「経営改善計画策定による補助金」については、その配分要件である〔前年度決算による「（帰属収入－消費支出）÷帰属収入」が0%以下であること〕が満たされない決算結果となり、2010年度・平成22年度は、40万円の補助金交付は交付されない状況となった。また、2011年度・平成23年度、2012年度・平成24年度においても同様となった。本年度も同様である。
- ⑤ 上記④を受け、併せて2012年度・平成24年度より事業運営を行う「大阪府スマイルチャイルド事業」の趣旨により、幼稚園開園11時間、預かり保育の時間延長（早朝午前8時登園・午後7時終業）を実施することより、年度内において新たな「経営改善計画」を策定し、幼稚園運営・経営の安定化を目指した。

- ⑥ 前記の経緯、また今後の幼稚園運営について第5節「記載の教育環境・設備の整備」に記載の通り、教員の資質向上と併せて教育環境の充実を図る趣旨を以て改修工事を実施した。これは、これからの幼児教育機関として先駆けて実施を優先させた。経営改善計画は、この大規模改修工事を踏まえて2012年10月に修正を行った。

今後当初の「経営改善計画」（平成20年度策定）をその基本とし、当該年度の修正を加えながら計画を推進するものである。

平成20年度より、大阪府私学助成削減の方針が大阪府により行政改革として実践され平成22年度以降においても2.5%カットが表明されたが、本園の場合は「借入金返済」が大きな要件を占め、経常費補助金削減は大きな衝撃である。経常費補助金交付を本来とせず、本園としての教育運営を実践すべきが責務と認識するが、平成17年度から平成20年度の園児減少を捉えると経常費補助金の交付趣旨並びに増額が有効となるよう、経営努力すべきと感じる。併せて、私立幼稚園本来の教育内容、本園「建学の精神のより充実」に向けての努力研鑽に励むべきと痛感するものである。

第8節. 大阪府私立幼稚園経常費補助金

平成24年度大阪府私立幼稚園経常費補助金の配分基準により、41,706,000円の補助金交付となった。これは、平成20年度園児数（近年の園児数最少年度）より対比すると10,513千円の増額となる。但し、昨年度平成23年度と対比すると、487千円の減額となった。その主な要件は、園児数の減少による「経常費補助金配分要件」によるものである

経常費補助金 年度別交付実績（単位千円／下段は学籍数・当該年度5月1日時点）

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
38,426	38,830	35,223	33,627	34,150	31,193	36,992	40,391	42,193	41,706
213名	210名	191名	160名	154名	139名	151名	174名	191名	180名

第9節. 枚方市／平成24年度 私立幼稚園幼児教育充実事業補助金

枚方市より、平成22年度から「私立幼稚園・幼児教育助成モデル事業補助金」として補助金交付が成されていたが、本年度より標題の「私立幼稚園幼児教育充実事業・補助金」と名称を変更し、交付されることとなった。その趣旨は、「平成21年度に改定された幼稚園教育要領において、幼児期における教育の重要性が位置づけられ、教育要領改定の趣旨を踏まえた小学校への円滑な接続、地域や家庭との連携等、幼稚園が行う特色ある幼児教育の取り組みに対して、平成21年度から平成23年度までの三年間助成を行うことで幼稚園教育の充実を図る」としていた趣旨を継続して取り組むため交付された

標題の事業について昨年（平成23年度）に引続き、本園もこれを申請し、補助が成される見込みとなった。（上限30万円）その事業申請の内容は、①地域の自然、人材、行事、公共施設を活用し、幼児に多様な体験をする機会を提供する事業。②幼児教育の充実に資する事業。（園庭開放等）以上の事業の申請により、枚方市より標題補助金30万円の交付決定となった。（2012年3月交付）

第10節. 保護者交付各補助金

（枚方市私立幼稚園保育助成金補助金は、枚方市教育委員会より直接保護者に交付）

私立幼稚園就園奨励費補助金をはじめとする2012年度・平成24年度保護者交付金は、以下の金員が京都府並びに各市町村・行政機関より補助金交付となり、本園より保護者に配分した。これにより、私立幼稚園就園児 取り分け本園の保護者負担を軽減し、幼児教育の一層の充実させる趣旨の通り達成された。

補助金名称	交付学年	2011年度	H23年度	2012年度	H24年度
大阪府私立幼稚園保育料軽減補助金	3歳児交付	2011年度より廃止	—	—	—
枚方市私立幼稚園就園奨励費補助金	3～5歳児交付	9,733,100	105名	9,049,300	118名
京都府私立幼稚園保育料軽減補助金	3～5歳児交付	540,000	30名	270,000	15名
八幡市私立幼稚園就園奨励費補助金	3～5歳児交付	1,788,400	18名	735,600	8名
京都市私立幼稚園就園奨励費補助金	3～5歳児交付	140,400	3名	211,800	3名
京都市私立幼稚園就園教材補助金	3～5歳児交付	494,000	9名	164,000	7名
京田辺市私立幼稚園就園奨励費補助金	3～5歳児交付	111,000	1名	114,000	1名
枚方市私立幼稚園保育助成金補助金	3～5歳児交付	5,314,400	160名	5,437,200	159名

第11節. 組織運営体制

① 理事長・理事会の役割と責任

従前より理事長・山口亨は、体調不調が続き、幼稚園に赴いての現認することが困難な状況となった。そのため、法人業務及び幼稚園業務運営については、代表権のある副理事長・山口尚志(園長)がこれを執行し、何ら差し障りのない処理を行い、業務を遂行している状況である。これは、副理事長(園長)が理事長に詳細にわたり報告・説明を成し、法人運営について円滑化されている点、併せて、私立学校法改正の際に、本法人の代表権のある副理事長としたことより、何ら問題が生じていない現状である。尚、法人評議員の方が2012年5月に逝去され、選任が必要とされるが現在(2013. 03. 31)、欠員の状況となっている。

② 幼稚園運営体制

従前通り、平成24年度中においても「園務分掌規程」に基づき、業務を分掌し、合理的で機能的な幼稚園運営を図った。また「行事担当分掌」についても職員の責任と自覚のもと遂行され、反省課題はあるものの円滑な園運営がなされた。

第12節. 教員の資質向上

① 園内における保育研究

平成24年度、園内での「研究保育」を実施した。当該保育内容について全教諭より、指導助言等を行い総合評価を行った。全教諭は、研究保育及び評価反省会を日々の保育に活かした。

1	2012年 5月15日	製作活動 切り貼り	年長たけ組	新明教諭
2	2012年 5月17日	製作活動 5月環境製作	年中きく組	西川教諭
3	2012年 5月23日	製作活動 6月環境製作	年少たんぼ組	長倉教諭
4	2012年 6月22日	製作活動 うちわ作り	年中さくら組	大堀教諭

② 園外における研修

平成24年度、園外での「研修会」に下記の通り、参加した。

1	2012年 8月18日	幼児・低学年の行動観察から情報を読みとく	大阪医科大学LDセンター／園長・主任参加
2	2012年 9月 8日	発達に課題のある子ども達へのクラスで教えるソーシャルスキル	大阪医科大学LDセンター／主任参加
3	2013年 1月17日	就学に向けて大事にしておきたいこと。子どもの発達と子育て	京都市きらきら園／主任参加
4	2013年 1月30日	心弾ませ生き生きと表現する子ども目指して／互いに育ちあう援助と環境の在り方 奈良教育大学・横山真貴子教授講演	枚方市立樟葉幼稚園／園長・他教員4名参加(甲斐、坪川、新明、大堀各教諭)

③ その他の園内外における研修等

平成24年度、園内外で「その他研修会」として下記の研修に参加。他、6/7, 2/1に枚方市私立幼稚園園長会出席

1	2012年11月15日	視察研修	大阪府立松心園／園長・主任・細川 出席
2	2012年 7月12日	園長セミナー 他園3名	本園会議室／園長参加
3	2012年12月13日	園長セミナー 他園5名	園長参加
4	2013年 2月20日	園長セミナー 他園2名	本園会議室／園長参加

第13節. 園児健康管理

平成24年度中に下記の園児健康管理を行った。

- ① 毎月(8月度は除く)身長、体重の測定 ② 5月、9月、12月、3月 胸囲、座高の測定。
- ③ 学校保健法により右記の健康診断を実施。検尿検査5月、寄生虫検査5月、歯科検診6月、内科検診6月実施
4歳児・5歳児については視力検査を実施。
- ④ 園児健康管理上において特記すべき事項

インフルエンザの罹患状況

2013年1月10日以降の園児インフルエンザ罹患による欠席状況は、44名に留まった。尚、学級単位の臨時休園措置(学級閉鎖)の対処はこれを執っていない。2月23日を以て、インフルエンザ罹患は終息した。

第14節. 職員健康管理

職員健康診断、平成24年6月21日実施

第15節. 幼稚園行事（事業）の概要 報告

04/03	第36回 入園式	09/03	2学期始業式	01/08	3学期始業式
04/10	1学期始業式	09/22	運動会	02/01	節分
04/27	子どもの日の集い	09/28	敬老の集い	02/16	生活発表会
05/10	遠足（枚方パーク）	10/12	遠足（琵琶湖博物館）	02/21	小学校交流会
06/06	歯科検診	10/22	いもほり	03/01	雛祭り
06/07	内科検診	11/17	作品展	03/11	お別れ会
06/10	日曜参観	11/29	移動動物園	03/15	第36回 卒園式
07/06	お泊まり保育	12/03	楽団公演	03/19	平成24年度終了式
07/23	1学期終了式	12/11	音楽会		
07/28	青葉まつり（夏祭）	12/21	2学期終了式		

年長児、年間を通じて「枚方市立くずは北サービスセンター」訪問10回

第16節. 学籍報告・学事報告

平成24年度 学籍 2012年5月1日現在

3歳児46名 4歳児68名 5歳児66名

合計180名

年少学年	学籍	男児	女児
すみれ	15	9	6
たんぽぽ	15	9	6
ばら	16	9	7
小計	46	27	19
年中学年	学籍	男児	女児
うめ	23	12	11
きく	22	11	11
さくら	23	11	12
小計	68	34	34
年長学年	学籍	男児	女児
まつ	22	11	11
たけ	22	12	10
ゆり	22	12	10
小計	66	35	31
全学年	学籍	男児	女児
合計	180	96	84

平成24年度 卒園児就学小学校（就学は平成25年度）

就学 小学校		まつ	たけ	ゆり	合計
枚方市立	樟葉北 小学校	4	7	3	14
	樟葉	5	4	7	16
	樟葉西	7	5	3	15
	船橋	3		1	4
	樟葉南			1	1
	牧野			2	2
	長尾			1	1
八幡市立	橋本	1	1	2	4
	美濃山		1		1
京都市立	美豆			1	1
	納所	1			1
	明親		1		1
京田辺市立	桃園		1		1
学校法人 （私立）	同志社	1	1		2
	大阪聖母			1	1
高松市立	太田			1	1
西宮市立	甲陽園		1		1
	合 計	22	22	23	67

第17節. 財務状況報告

2012年度・平成24年度の財務状況については、法人監事2名及び監査法人・公認会計士より、適正に運営されていると認められた。計算書類〔消費収支計算書・資金収支計算書・貸借対照表・財産目録〕については、後に本書とは別に本園オフィシャルホームページにてこれを報告・公開する。尚、特記すべき項目は、学籍減少（11名）による「学生生徒納付金」の減額。また施設設備改修にともなう支出が増額となった。この施設設備改修には、教育環境の整備並びに緊急防水改修工事等の改修費用について支出の拡大となった。

第18節. その他の報告

① 未就園児教室の開講

未就園児教室キディクラブは、2011年4月18名の入会者を以て開講、2012年は、28名の入会者を以て開講した。業務提携（委託）をマールステップスに業務委託し、本園と補完関係を執りながら未就園児子育て支援事業を行った。また親子未就園児教室として、あおば教室を13名の入会者を以て開講。さらに10月より、同様の親子教室半年コースとして10名の入会者を以て開講した。あおば教室は、マール学研と業務提携（委託）し、本園入園予定児をその会員として子育て支援事業とした。

② 未就園児（在園児）園庭開放・未就園児親子体操教室の実施

子育て支援事業として「園庭開放」を実施した。2012年4月より、2013年3月までの期間、土曜日午前中の開催とし、年間継続して10日間実施。また、夏まつり（青葉まつり7月）、運動会（9月）、文化祭作品展（11月）に招待し、子育て支援を図った。加えて、未就園児親子体操教室を平日の月曜日に3回開催。毎回約25名程度の参加者となり子育て支援の一環として地域の子育て支援対応を充実させた。

③ 小学校との連携・交流

2013年2月21日、枚方市立樟葉北小学校のご理解とご協力のもと、2年生児童と交流会を実施した。本園年長児が就学への期待を高め、且つ異年齢児による交流を深め「人間関係・コミュニケーション」の育成に教育効果があった。

④ ホームページの更新と情報公開

以下の通り、ホームページ更新を行ない「情報公開」を行った。

経営理念（本報告書第2節第①項）並びに本学園の使命（第②項）に基づき「本園教育内容等の情報公開」「子育て支援情報」や「学校評価」「財務状況」等を公開した。さらに「園日誌」というタイトルにて日々の園児の生活の様子教育活動等を情報公開した。（園児画像等についての掲載については、年度初に保護者より全て了承を得、公開した）このことにより、広く幼稚園教育内容や本園の教育方針を十分に一般的に理解を得ることができたものと確信する

2013. 03. 26	「卒園に際して（2013卒園）」更新
2013. 02. 26	「元気を支えるくずは青葉幼稚園・保育概要」「科学遊びの導入について」更新
2013. 02. 04	「入園説明会・園庭開放」「未就園児教室」更新
2012. 11. 05	「感動の声・入園志望の動機」更新
2012. 10. 26	「感動の声・運動会」更新
2012. 09. 01	「園児募集要項2013年度版」更新
2012. 08. 06	「トップページ」リニューアル、「学園環境」「幼稚園生活・一日の流れ」「預かり保育」「感動の声」「何を基準に幼稚園を選ばれますか」更新
2012. 06. 11	「沿革」更新
2012. 06. 04	「園児募集要項・情報公開」更新
2012. 05. 31	「幼稚園概要・情報公開」更新
2012. 04. 09	「お知らせ・保護者あて情報発信のページ」更新
2012. 04. 04	「教育方針・指導方針」「未就園児教室」「学費・納付金」更新
2012. 04. 01	「幼稚園概要・情報公開」更新

〔2012年度「自己評価・学校評価」並びに「事業活動報告」を2013年4月に公開の予定〕

⑥ 高齢者との交流会 年長児・枚方市立くずは北サービスセンター訪問事業

2012年度においても年間11回、下記の学級別の日程で訪問した。高齢者と手遊びやゲーム等を楽しく行ない、関わりを深めた。園児は、「高齢者を敬う心」はもちろんのこと「人との関わり」の大切さを体得した。（12月、2月は3クラス合同で訪問）

まつ組	5月25日	6月21日	10月29日	12月07日	2月27日
たけ組	5月17日	5月29日	11月08日	12月07日	2月27日
ゆり組	5月15日	6月18日	10月16日	12月07日	2月27日

⑥ 2012年度 通園バス運行

大型幼児専用バス（ライオン仕様・いぬ仕様）2台、小型幼児専用バス（普通車ライオン仕様）1台、合計3台の通園バスにより、各バス3方面（コース）合計9方面（コース）の路線を編成し運行した。然るに年度内において、1コース（1路線）の運行が、始業時刻の遅延、運行路線上の所用時間の問題より、一部のコースに編入等を行い、全8コースでの運行と修正した。当初より、大阪府大学私学課の指導による「通園バス園児乗車最大時間40分」を厳守しスムーズな運行の改編とし、園児に長時間乗車に対する負担のなきようにした。通園バス利用園児数は、139名となり全園児180名に対して、77.2%の割合となった。

※ 特記事項 2013年1月19日、通園バス運行に関わる「クレーム」投書について

貴園の園児送迎車の運転手は一方通行道路を早々と逆走して押からず、車社会の根本ルールさえ無視して平然としているようなモラル欠陥者に幼児を運ばせるような園において、どうしてしかも幼児教育が行えしやうかと、新藤は違法行為の常習は厳に戒められたい。今後はお新藤は行為がより良くなるよう努力を怠らぬことを望みますので、さきつ

左記の内容を以て通常ハガキにて本園園長あて投函がなされた。差出人は、「楠葉並木自治会」とされ、「一方通行を逆行云々」という指摘であった。間違いなく、通園バス運行については道路交通法を順守しており、事実の誤認であることは明確であるが、差出人が「楠葉並木自治会」と総称であったため、同地区自治会長にその内容と事実の誤認であることを連絡した。楠葉並木自治会長の理解も得、匿名で且つ「自治会」の名称を使用されたことに対して遺憾の意向を示された。今後の自治会会合等において公開し、本園の正当性について周知徹底するとの回答を得た。尚、推測される道路事情は、一部「許可車両以外、通行禁止」区域があるが、本園は枚方警察より「許可」を申請し、既に許可を受けており（通行許可証の交付）何ら違法性なく、通園バス運行をしているところである。併せて、当該道路については、過去30年近く安全運行をしており何ら問題のないところである。

⑦ 銀行借入金に関して（第7節に関連して）

銀行借入利息変遷の経緯 平成19年11月に借入先、京都銀行くずは支店に借入利率の縮小を依頼、協議の結果、

0.25%引下げの合意が成され、3.125%の借入利率となり平成20年度予算作成に至った。また、平成21年度中において借入利率について京都銀行との協議交渉の結果、2.925%となった。さらに平成22年度5月に社会情勢等諸般事情を踏まえ再度借入利率の協議交渉の結果、2.425%と条件変更の契約を実施。その後、年度内10月、園児募集・入園願書受付を行ない、おおよその次年度学籍が見込める状況となり、再度借入利率の条件変更について申し入れ、協議の結果、同年12月末日返済時より、2.175%の借入利率の条件変更契約を締結した。2011年度において更なる借入利率の条件変更を申し入れ、協議の結果2.075%の条件変更が、平成23年12月に契約更新を行った。続いて2012年・平成24年11月30日、再度の借入利率の協議に入り、**1.975%の条件変更**に合意し、0.1%の利率改定が成された。平成19年より対比すると、1.15%の利率引き下げが実現した。これらは、本園にとって財務運営上、好ましい方向となった。

⑧ 園則変更について

本園の園則における始業時刻は、午前8時と定めていた。然るに、事実要件としてその実態は、開園以来 概ね午前9時30分を一斉保育開始時刻としていた。今般、平成24年度より幼稚園開園11時間、早朝よりの預かり保育を運営するに際し、実態に則した園則であることが、合理的と判断し「園則変更」を大阪府・私学大学課に届け出、施行した。

[大阪府・私学大学課、2012年2月1日受理]

⑨ 2012年度 給食実施状況・食育の取り組み状況

年間、102回の給食を供給した。入園・進級当初（4月）は「集団で食する食事」としての安定に重点をおき、食べやすい環境を調えメニューは「パン給食と牛乳」を中心とし、5月より米飯給食の供給をはじめた。また、米飯給食は、アレルギー対応食を個別に供給し、「食の安全」を確保し、経常的に「無農薬米・無農薬野菜」を食材として採用した。また、特別食として ちらし寿司、きつねうどん、揚げそばの中華あんかけ、スパゲティ等、メニューの充実に努めた。園児にとって和やかでおいしい給食の位置づけが成された。また「食育」の一環として、栄養の三要素の話等、食育に関する指導を行ない、食に対する意識の向上に努めた。さらに、「餅つき（＝お餅を食す）」「芋ほり（＝収穫の喜びと同時に蒸かし芋を食す）」「雛祭り（＝由来を知り食す）」等の行事を通して園児の食への関心を深める指導を実践した。

また、保護者に向けて、6月に「給食試食会」並びに「園児の食事の様子を参観」を実施した。

※ 2009年度・年間給食実施状況

月	パン給食	米飯給食	給食回数	月	パン給食	米飯給食	給食回数
4	5	0	5	11	4	7	11
5	4	5	9	12	2	4	6
6	5	7	12	1	3	5	8
7	2	4	6	2	4	6	10
8	0	0	0	3	4	5	9
9	4	6	10	計	41	55	96
10	4	6	10		42.7%	57.3%	100%

※ 2010年度・年間給食実施状況

月	パン給食	米飯給食	給食回数	月	パン給食	米飯給食	給食回数
4	5	0	5	11	5	6	11
5	4	6	10	12	3	4	7
6	4	8	12	1	3	5	8
7	2	3	5	2	4	7	11
8	0	0	0	3	2	5	7
9	5	7	12	計	40	58	98
10	3	7	10		40.8%	59.2%	100%

※ 2011年度・年間給食実施状況

月	パン給食	米飯給食	給食回数	月	パン給食	米飯給食	給食回数
4	5	0	5	11	4	6	11
5	3	5	8	12	2	3	6
6	4	9	13	1	3	6	8
7	1	2	3	2	4	6	10
8	0	0	0	3	3	6	9
9	4	6	10	計	38	55	93
10	5	6	11		40.8%	59.2%	100%

※ 2012年度・年間給食実施状況

月	パン給食	米飯給食	給食回数	月	パン給食	米飯給食	給食回数
4	5	0	5	11	5	7	12
5	4	6	10	12	2	5	7
6	4	7	11	1	3	7	10
7	3	4	7	2	4	6	10
8	0	0	0	3	3	5	8
9	5	5	10	計	43	59	102
10	5	7	12		42.1%	57.9%	100%

※ 特記事項

- ① 2012年度の給食供給数は、各年度と対比して「暦」の関係により、回数増加。[毎週、月・水・木曜日を給食供給日と固定]
- ② 保護者より納付・徴収の「給食費」については、2011年度と対比すると、9食分増加。これを費用換算すると
 保護者よりの年額徴収額 @¥2070×12ヶ月×180名（5/1学籍）=¥4,471,200 A
 実質回数からの必要額 @¥270×102食×180名（5/1学籍）=¥4,957,200 B
 差引 ¥486,000円の 幼稚園負担となった。

※園児給食徴収回数は92回をその基本とし、欠席等により食していない場合であっても一律徴収に2009年度より変更している。上記は、皆出席として試算。

⑩ 平成25年度事業計画策定に際しての特記事項

2011年10月から次年度事業計画の策定に入り、2012年1月にその要件を確定した。この事業計画の主な内容は、以下の通りであり、**2012年度に実践の年度**となった。

- A) 「預かり保育事業」を終業を午後7時まで延長した。また、早朝預かり保育とし午前8時より園児の受け入れを行う。費用については、平成20年度策定の「経営改善計画」のもと、本来は費用改訂(値上げ)の予定であったが、これを据え置き 延長時間分のみの追加費用を設定した。
- B) 子育て支援事業として2形態の未就園児教室を開講する。一つは親子未就園児教室、ひとつは親子分離未就園児教室を開講。
- C) 園庭開放を休業日の土曜日に開催し、子育て支援事業を実施する。(昨年同様)併せて、教育相談等を受け支援事業とする。また、通常保育時に「親子体操教室」を3回実施し、子育て支援事業を充実した

上記の事業計画を踏まえ、2012年10月に「2013年度・平成25年度 事業計画」を新たに策定。上記の2011年度策定の計画事業の継続することとし、その他の骨格内容は、ここ3～4年前からの「教育環境、設備等の改修工事」を完了とし、2013年度以降は「緊急性のある施設設備改修」のみとすることとした。

教育事業については、「科学あそび」[学研・講師派遣型]を年長学年に年間6回(3クラス故、年間18回)開講し、園児の科学遊びを通じての「考える力」「自分で試してやってみる力」を育む保育に取り組むこととした。この取り組みに際し、2013年2月に年長児3クラスにおいて実践的デモ保育を実施した。新年度に先駆けて、その実際はどういう指導であるか、またその教育効果と子ども達の興味、関心の度合いはどういうものかを実査するためのデモであったが、予想通り年長児たちの眼の輝きがあり、新年度からの実践の方向性がみいだせた。取り組み導入の趣旨は、子ども達に、より魅力的な幼児教育を実践し、遊びを通して知的刺激を与え環境を調べていくことを目標とする。そして、身の回りの不思議だと感じる感性と、なぜと思う知的な好奇心で、子ども達が夢中になって遊ぶことをより育むこと、子ども達が初めて「おもしろい」と思ったことを「好きなこと」にしていくこと。さらに「不思議、なぜ?」を楽しくあそびながら、自由にその子らしく感じていく、これが科学への取り組みの最初の一步と確信し、より幼児の成長に期すことを目標として取り組んでいくこととした。

⑪ 落雷被害について

2012年5月29日・午後3時過ぎ、夕立・豪雨となり雷の鳴り響く午後となった。その後、本園付近に落雷、遊戯室のプレーカーが落ち、職員室より「自火報」が、異常を感知。非常ベル発報する。園児の安全確保の措置を執り、安全確認の後、非常ベルの発報を停止。落雷による自火報の電気系統の故障と判明。処理は、契約の警備会社セコムよりの緊急出動にて対応。続いて、当日夜分に電気業者による点検作業を以て「落雷による自火報・基盤の損傷」と判明。落雷による電気系統の故障は、以下の通り。

- ※ 電話機器の故障 →新規電話機及び受信機器の新規入れ替え
- ※ 遊戯室舞台・電動の緞帳開閉機器の故障 →新規開閉機器(モーター)の購入入替。

同年8月11日未明ゲリラ豪雨に見舞われ、上記同様の落雷被害。5月と同じく「自火報」の電気系統基盤損傷となり、再度の修繕が発生。他、電気系統の損傷・故障はなかった。(因みに楠葉地域は豪雨により。冠水・浸水に見舞われ大きな被害となった)一連の落雷による被害により、修繕費の大きな支出となり、保険(建物共済)の追加加入について検討したが、所謂「掛金」が膨大な金員となるため、現在検討保留の状況にある。

⑫ AEDの設置

2012年8月、緊急時に備え「AED」を設置。取引関係にあるセコム(株)より、幼児用対応用のAEDをリース契約。夏休み中の設置であったため、HP並びに緊急連絡システムにて保護者に告知・広報し周知徹底した。

⑬ 「チューリップの会」の参画【地域子育てサロンの支援】

2012年9月に樟葉北小学校区福祉委員会主催の「子育てサロン」(チューリップの会)に講師として出席を依頼され、快くこれを承諾。当日、園長・主任の参画となった。地域主催の幼稚園未就園児(就園二年前の乳幼児)とその保護者が対象の定期的な子育てサロンの会で約20名(組の親子)の参加があった。主宰者からの依頼は、幼児との遊びを現場の幼稚園教諭が指導にあたること、また「幼稚園とはどんなところ」という課題で幼稚園園長が講話することを依頼された。当日、参加して「子育てサロン」と題して約20名が参加を申込みされる状況を見て、乳幼児をもつ母親が、幼稚園(若しくは保育園)に興味関心が高いことに気付かされた。本園の園庭開放についても就園前1年のいわゆる次年度就園予定児の参加以外に次々年度の就園予定児の参加が毎年ゼロでない事実より、その実態が認識できる。今後はこうした公的な地域の子育てサロン等にも本園が教育機関として積極的に関わる方策を執るべきと考える。

⑭ 施設設備等、教育環境の改修工事・新設・購入に関する特記事項（17節 P11関連）

2012年度・平成24年度中に行った「施設設備等、教育環境改修・新設・購入」の概要。

砂場殺菌作業	園児休息室新設改修工事
トイレ殺菌、洗浄作業	プレハブ倉庫改修工事
遊戯室屋根防錆塗装	北園舎2階廊下、エキスパンション修繕
電話機新規入れ替え（落雷被害）	北園舎壁面防水工事
遊戯室舞台開閉機新規取り替え（落雷被害）	北園舎1階廊下、塗装・防塵処理
自火報設備修理 2回（落雷被害）	サロン室（小会議室）改修工事
園舎壁面緊急防水工事	園長室・応接室改修工事
北園舎保育室改修工事	電子ピアノ4台購入〔父母会より現物寄付〕
職員更衣室改修工事	大型絵本購入〔父母会より現物寄付〕
職員ミーティング室拡張工事	ままごとセット購入〔父母会より現物寄付〕

⑮ 学費管理システムの新規導入

1988年度・昭和63年度より、導入のPCによる学費管理システムの改訂バージョンとして2012年度・平成24年度において新規導入を行った。金融機関とのデータ伝送は、従来の通りであるが請求、納付のシステムが一元化され合理的な処理ができることとなった。但し、年度内において「バックアップ処理」に不具合が発生したため、システム会社による「クラウド形式」に変更した。当初は「個人情報保護」の観点より、園外に当該情報を預託することに躊躇し、園内において管理体制を構築し運用していた。然るに、データ消滅というPC本体の不具合が発生し、より確実なデータ管理を行うためにこの際、クラウド形式に移行した。システム運営会社とは、「個人情報保護」の観点について十分に協議を行い取決めを含め、その保護について確実性を期した。

⑯ 不用教材、粗大塵等の処分

予てより、活用済・使用済等の大型教材（大型紙芝居）、大量の大型水鉄砲、缶馬等の処分について対応していたが、保育室他の改修に伴い、この際処分の方で2012年11月に検討に入った。その際、各保育室に設置していた、テレビがアナログ対応により大量に不要となったこと、併せてその他の不用品について処分した。また、保管すべき「帳票類」等についても保存期間を経過しているものについてこの際、処分することとした。一連の不用物は、長年にわたり南園舎隣のプレハブ倉庫、南園舎2階倉庫、北園舎教材室に保管していたものであり、8月に初回、残りを12月に一挙に産業廃棄物業者に依頼し処分した。普通トラック5台分の大量となりその費用が予想より拡大したが今後の管理体制を構築する趣旨を以てこの際の処分とした。

⑰ 文部科学省「子どもの学習費調査」

文部科学省より「子どもの学習費調査」として、家庭の学習費について全国調査が行われ、本園が指定幼稚園として選定された。これは、一年間を通して「家庭の学習費」及び「学校関係の学習費」等を調査するものであり、そのデータは今後の教育資料として供される。大阪府内より5園が選定され、本園においても調査することとなった。保護者18名の方に理解をいただき、年間を通して「学習費」について調査協力があつた。

⑱ 中学生の「職場体験学習」受け入れ

例年の通り、中学生の職場体験学習として、2012年10月30日、31日の二日間、枚方市立楠葉中学2年生4名。2013年1月30日、31日の二日間、同・楠葉西中学2年生5名を受け入れた。園児の登園前の準備から降園にいたるまで、園児との活動を共にし、幼稚園教諭の職業内容を中学生なりに理解したようである。また、その後の中学生の感想において、「怒ることと叱ることの違い」に感銘したとの感想を本園に寄せられた。中学生にとって有意義な幼稚園職場体験学習となったものと確信する。

第19節. 沿革 -1

和51年 1976年	5月2日 理事長・山口亨「建学の精神」を考察
昭和52年 1977年	2月22日 学校法人山口学園 法人認可を大阪府知事より受ける 4月10日 第1回入園式挙行 園地（開園当時） 合計 4249.0m ² （1287.5坪） 園舎面積 402.9m ² 延床面積 855.7m ² 鉄筋コンクリート造り〔保育室5室、遊戯室1室、職員室、園長室の構成にて開園〕 学籍園児数 79名（4歳児48名、5歳児31名）幼稚園教育事業開業
昭和53年 1978年	開園二年を経過し、園児数増加を見込み、園舎増築を検討、計画。学籍園児数184名。
昭和54年 1979年	園舎増築工事完成 園舎面積 466.6m ² 延床面積 874.8m ² 鉄筋コンクリート造保育室・新職員室増築。学籍園児数274名。
昭和55年 1980年	園児数増加により、第二次園舎増築を検討、計画に入る。 学籍園児数335名。
昭和56年 1981年	園舎増築工事完成 園舎面積 83.1m ² 延床面積 139.2m ² 鉄筋コンクリート造 保育室2室を増築。学籍園児数376名。
昭和57年 1982年	園児数増加により、遊戯室新築を検討、計画に入る。 学籍園児数464名。
昭和58年 1983年	遊戯室増築工事完成（新遊戯室） 園舎面積 317.4m ² 延床面積 317.4m ² 鉄骨造 遊戯室増築。在籍数528名。
昭和59年 1984年	コンピュータ導入し学籍管理他の処理を開始。学籍園児数507名
昭和61年 1986年	開園10周年記念事業として「幼児教育セミナー」開催〔講師：井上敏明（教育評論家・六甲カウンセリング研究所所長）講演〕記念誌 タブロイド版20頁作成、園児、卒園児に記念下敷配付。学籍園児数444名。前年度対比63名の園児数減
昭和62年 1987年	園児定員500名を大阪府に申請（定員増申請）400名の認可を受ける。 学籍園児数409名
昭和63年 1988年	学費口座引落処理をコンピュータ処理開始〔銀行口座振替システム運用〕 学籍園児数330名。前年度対比79名の園児数減少。
昭和64年平成元年 1989年	学費(保育料)年間、156000円に改定。 学籍園児数337名
平成 2年 1990年	文部省幼稚園教育要領の改訂により園則変更する。就業規則等改定、労働環境の整備を図る。学籍園児数364名。（前年度対比27名の園児数増）
平成 3年 1991年	幼稚園パンフレットタブロイド版8頁作成。開園15周年記念として父母会より「太陽電池時計」寄贈。学籍園児数307名。（前年度対比57名の園児減少）
平成 4年 1992年	学校週5日制を導入 園則変更する（平成4年9月より実施）文部省幼稚園教育要領の趣旨に則り少人数学級編制を採用、園則変更。（1組40名定員を35名定員変更、3歳児は25名定員）学籍園児数291名。
平成 5年 1993年	米飯給食を導入。 学費(保育料)年間、168000円に改定。学籍園児数233名。（前年度対比58名の園児減少）
平成 6年 1993年	米飯給食を導入し、給食の充実を図る。 学籍園児数231名。
平成 7年 1995年	園地の拡大、合計 5386.1m ² （1632.1坪） 理事長・山口亨 大阪府知事より教育功労者表彰 受彰 青葉スポーツクラブ創設（スポーツクラブ開設）第2回 枚方チャイルドサッカー大会出場優勝幼児体育指導を教育課程に編纂。学校週5日制を導入の拡大、園則変更する（平成7年4月実施） 学籍園児数202名。

第19節. 沿革 -2

平成 8年 1996年	開園20周年を迎え、諸行事等の見直しを行う。学費（保育料）年間、204000円に改定。学籍園児数 2 2 2 名（前年度対比 2 0 名の園児数増）
平成 9年 1997年	預かり保育の実施、子育て支援の充実を図る。学費(保育料)年間、228000円に改定。学籍園児数 2 2 1 名。
平成10年 1998年	夏期保育の長期化並びに夏期保育中の預かり保育拡大。学籍園児数 2 3 3 名。
平成11年 1999年	少子化対策臨時交付金（補助金）にて園舎・保育室改修工事を実施。学費管理システムPCソフト導入。学費(保育料)年間225000円に改定。学籍園児数 2 2 3 名。
平成12年 2000年	ホームページ開設 情報公開並びに幼稚園教育内容広報発信を開始。山口亨園長退任、山口尚志園長就任。学籍園児数 2 2 9 名。
平成13年 2001年	入園願書、Emailにて入園受付開始。学籍園児数 2 1 2 名。
平成14年 2002年	食育をテーマに講演会開催 講師:大和学園理事長 田中幸雄氏。学籍園児数 2 1 4 名。
平成15年 2003年	園舎改修[体育倉庫、備品倉庫、年少保育室空調設備設置]学籍園児数 2 1 3 名。
平成16年 2004年	異年齢児複合教育活動の本格化（縦割り保育）父母会運営組織の変革。全保育室並びに遊戯室に空調設備を完備。学籍園児数 2 1 0 名。
平成17年 2005年	課外教室として幼児英語教室（ECC）、幼児ブレイルーム（学研）、未就園児教室を開講。異年齢児複合教育活動（縦割り保育）の継続。教育講演会開催 講師:大和学園理事長 田中幸雄氏。学籍園児 1 9 1 名。
平成18年 2006年	開園30周年を迎える。園庭開放を実施し、未就園児子育て支援事業に取り組む 異年齢児複合教育活動（縦割り保育）の継続。課外教室エンピツらんど開講。理事山口尚志、法人の代表権を有する副理事長就任。 学籍園児数 1 6 0 名（前年度対比 3 1 名の園児数減少）
平成19年 2007年	園庭開放を継続実施し未就園児子育て支援事業を拡大。異年齢児複合教育活動（縦割り保育）の継続。課外教室「こどもアートクラブ」開講。園内改修[預かり保育室・年中園舎手洗い場・園庭西花壇・園地周りフェンスの改修] 学籍園児数 1 5 4 名。
平成20年 2008年	園庭開放日を月2回とし未就園児子育て支援事業を拡大。未就園児教室キディクラブ開講。夏休み預かり保育開始。給食内容について改良改善、従来にましてアレルギー食への対応を実施。学籍園児数 1 3 9 名（前年度対比 1 5 名の園児数減少）
平成21年 2009年	学校評価・自己評価をホームページに公開、併せて財務状況について公開。異年齢児による教育活動のより充実に努め、その活動期間の長期化を図る。園庭開放を継続実施。夏休み預かり保育の拡大実施並びに冬休み預かり保育の実施。年度末（2010年3月）に平成22年度向け、保育室6室改修工事（室内手洗場、保育室ドア改修他）並びに園内花壇の安全改修工事を実施。その他の改修工事（屋上防水塗装、園庭境界部分塗装の各修繕工事）を実施完了。学籍園児数 1 5 1 名
平成22年 2010年	学校評価・自己評価、財務状況について公開。園庭開放事業を継続。平成21年度に引き続き、保育室改修工事を施工し、園児教育環境整備を整える。学籍園児数 1 7 5 名
平成23年 2011年	学校評価・自己評価、財務状況について公開。園庭開放事業を継続。学籍園児数 1 9 1 名
平成24年 2012年	本書の通り。学籍園児数 1 8 0 名。[中規模改修工事を実施]

学籍の推移 [資料]

年 度	3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	合 計	入 園 児 数	年度末卒園児数	納 付 金 年 額
昭和52年	—	48／2組	31／1組	79／03組	79名	31名	120000
昭和53年	—	122／3組	62／2組	184／05組	141名	62名	120000
昭和54年	—	157／4組	122／3組	279／07組	167名	122名	132000
昭和55年	23／1組	162／4組	150／4組	335／09組	197名	150名	132000
昭和56年	35／1組	190／5組	151／4組	376／10組	202名	151名	132000
昭和57年	44／1組	231／6組	189／5組	464／12組	248名	189名	132000
昭和58年	40／1組	276／7組	212／6組	528／14組	277名	212名	132000
昭和59年	26／1組	244／7組	237／6組	507／14組	211名	237名	132000
昭和60年	54／2組	206／6組	216／6組	476／14組	179名	216名	144000
昭和61年	42／2組	211／6組	191／5組	444／13組	209名	191名	144000
昭和62年	42／1組	179／5組	188／5組	409／11組	186名	188名	144000
昭和63年	38／2組	132／4組	160／4組	330／10組	140名	160名	144000
平成01年	50／2組	165／5組	123／4組	337／11組	184名	123名	156000
平成02年	58／2組	147／4組	159／5組	364／11組	160名	159名	156000
平成03年	44／2組	215／4組	139／4組	308／10組	123名	139名	156000
平成04年	75／3組	90／3組	126／4組	291／10組	129名	126名	156000
平成05年	34／2組	112／4組	87／3組	233／09組	80名	87名	168000
平成06年	42／2組	84／3組	105／3組	231／08組	94名	105名	168000
平成07年	60／3組	60／3組	82／3組	202／08組	87名	82名	180000
平成08年	71／3組	92／3組	59／2組	222／08組	108名	59名	204000
平成09年	42／2組	93／3組	86／3組	221／08組	76名	86名	228000
平成10年	88／4組	55／2組	90／3組	233／09組	107名	90名	228000
平成11年	65／3組	99／3組	59／2組	223／08組	90名	59名	252000
平成12年	57／3組	80／3組	92／3組	229／09組	77名	92名	252000
平成13年	66／3組	72／3組	74／3組	212／09組	84名	74名	252000
平成14年	59／3組	75／3組	80／3組	214／09組	79名	80名	252000
平成15年	66／3組	74／3組	73／3組	213／09組	82名	73名	252000
平成16年	53／3組	84／3組	73／3組	210／09組	71名	73名	252000
平成17年	52／3組	57／2組	82／3組	191／08組	60名	82名	252000
平成18年	47／3組	56／2組	57／2組	160／07組	53名	57名	252000
平成19年	53／3組	47／2組	55／2組	154／07組	57名	55名	252000
平成20年	42／3組	51／2組	46／2組	139／07組	46名	46名	252000
平成21年	51／3組	47／2組	52／2組	151／08組	57名	51名	252000
平成22年	66／4組	57／2組	51／2組	174／08組	75名	51名	252000
平成23年	67／4組	67／3組	57／2組	191／09組	71名	57名	252000
平成24年	46／3組	68／3組	66／3組	180／09組	52名	66名	252000

2012年度・平成24年度 学校法人山口学園くずは青葉幼稚園の
教育事業について、以上の通り報告する。

2013年・平成25年4月1日

くずは青葉幼稚園

園長 山口尚志

(代表権のある学校法人山口学園 副理事長)



学校法人山口学園

理事長 山口 亨



Yamaguchi Gakuen Educational Foundation

2012年度・平成24年度 事業報告書

学校法人山口学園

くずは青葉幼稚園

<http://www.k-aoba.ed.jp/>

〒573-1102 枚方市北楠葉町38番1号

電話 072-857-8221 FAX 072-856-5944

Mail address info@k-aoba.ed.jp

2013年4月1日発行